

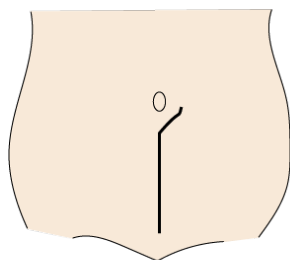
子宮体がん

【聖路加国際病院ロボット手術センター】

<子宮体がんの手術方法>

01. 開腹手術

従来の標準的な治療
です



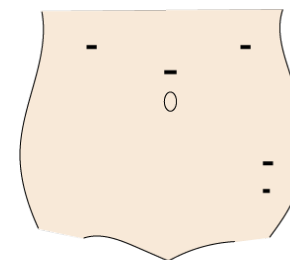
開腹手術での傷

02. 腹腔鏡手術

低侵襲※で傷が小さく
体への負担が少ない
ですが、技術的に難
しい手術です

03. ロボット支援手術

腹腔鏡手術の良さに加え、
傷が小さく痛みが少ない
手術です

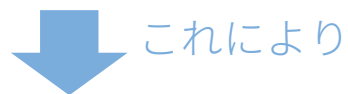


ロボット支援手術での傷

※低侵襲…手術・検査に伴う痛み・出血などをできるだけ少なくすること

<ロボット支援手術のメリット>

ロボット支援手術は、拡大視野により血管や神経が見やすく、
より正確で繊細、かつ安全な手術が可能となります。



メリット 開腹手術に比べとても
01 小さな傷になり、痛み
が少ない手術です

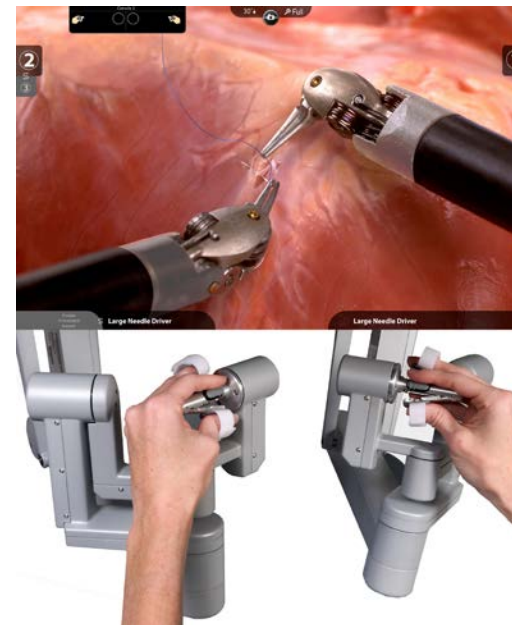
メリット 従来の腹腔鏡手術より
02 も、容易で安全な手術
が可能です

メリット 合併症の発生が少なく、
03 入院期間が短くなります

※リンパ節郭清術では、特に傍大動脈リンパ節まで郭清が必要な場合において、傷は恥骨上から李肋部までにかけて、とても大きな傷になります。ロボット支援手術ではこの傷を小さくすることができます。

<ロボット支援手術とは>

腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式です。
高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、
より安全で体への負担が少ない手術を行えます。



<ロボット子宮全摘術の術後経過例>

入院期間：7日間

1日目	手術前日	入院	
2日目	手術当日	手術	絶飲食
3日目	手術翌日		歩行、食事再開
4日目			
5日目			
6日目			
7日目	術後5日目	退院	